

自己評価報告書

平成23年 4月 21日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2012

課題番号：20330100

研究課題名(和文)メトロポリスからの外部性と創造性：千葉エリアからみる中心-周縁のシステム変容

研究課題名(英文)Externality and Imagination from Metropolis -System Transfiguration of Chiba-area as Center-Periphery-

研究代表者

尾形 隆彰 (OGATA TAKAAKI)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：80125913

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：千葉エリア、分極化のフロント、ポスト開発、記憶、反周辺、田舎暮らし、新しい観光開発

1. 研究計画の概要

中心と周辺の両面を持つ千葉地域が、その2つの側面故に有利さと不利さを併せ持つことが明らかになりつつある。こうした中での新しい可能性を実証的に明らかにする。

2. 研究の進捗状況

地域の基本的なデータを収集し、人口マトリックスなどを用いて解析した。またベッドタウン地域としての稲毛や浦安の住民関係の調査を行い、そこに過去の記憶と新しい運動がどう影響を与えているか調べた。また新しい動きとして、マリン・レジャー、田舎暮らし、文化創造活動なども掘り下げてきており、本年度に追加調査を行うことで全体のとりまとめに入る。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進捗している。

稲毛地区の新しい祭りに関する研究はほぼ完成し、新旧住民の関係に新たな知見を得た。マリン・レジャーの調査は半分完成し、追加調査に入るところで、外房の津波の影響で頓挫した。新しい事実が発掘できたので、本年後半には再開できる予定である。「田舎暮らし」については住民調査は終わったが、県全体の構造調査が残った。浦安の市民コミュニケーション調査や工業地帯の比較調査はほぼ終わっている。他にも記憶、ライフスタイルの変化、福祉などに関する調査もほぼ終わっており、全体としては7割以上の目標を達成できたと考えている。

4. 今後の研究の推進方策

やり残したことを調査する。千葉地域の新たな創造性について、様々な知見を得たので、今後はそれを中範囲の理論としてとりまとめられるように、全体研究会を多く開催し、論文や学会発表に生かす。また最終年には書籍として刊行する予定なので、そのための編集会議も始めたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

①大塚 先「京葉臨海部に働く労働者の生活と労働」千葉大学大学院人文社会科学研究所 プロジェクト研究 三宅明正編『日本の社会・労働運動の史的研究 プロジェクト報告書』第166集、2011年2月

〔図書〕(計3件)

①中澤 秀雄ほか 千葉大学社会学研究室『千葉稲毛夜灯祭り』2011年 155頁

②尾形 隆彰ほか 千葉大学社会学研究室『千葉大学社会学研究室調査実習報告書 一千葉県 千葉県の新しい可能性を考える一』2010年、240頁

③大塚 先ほか 千葉大学社会学研究室『千葉大学社会学研究室調査実習報告書 発見！浦安—情報化を見つめて』2008年 338頁 日新